教主さまお作 灰釉茶盌 銘「希望の光」

【ヨルダン土・宮城野萩釉】

題字 出口直日
通巻第564号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

天地（あめつち）の一さい万事は完全に
むかふ道程（どうてい）にあるものと知れ

出口王仁三郎聖師

季節の移り変わりに

関東教区特派宣伝使　小藪資史

この原稿を書いているのは、節分大祭のすぐ後のまだまだ寒さの厳しい日が続く最中ですが、掲載されるころにはずいぶんと春らしくなってきているでしょうか。

寒さが苦手な（と言っても暑さも得意ではないですが…）私は、「早く春が来てほしいなぁ…」などとついつい思ってしまいます。

「春（はる）」という言葉の語源については、草木の芽が「張（は）る」意からという説、田畑を「墾（は）る」意からという説、または気候の「晴（は）る」が転じて春になったという説などがあるそうです。

いずれにしても「春（はる）」という語からは、暖かくなってきて、生命活動が活発になり元気になるような感じがいたします。

日本は四季の美しい国であると昔から言われ、多くの詩歌や絵画にその様子が表されています。また、同じ日本の中でも地域によってさまざまな四季の姿があり、その土地の文化の形成に大きく関わってきたのだと言われています。私たちのご先祖さまは、四季の移り変わりを敏感に感じながら、日本人らしさを育んできたのでしょうか。そう考えると、何となく季節の移り変わりに思いを馳せたくなってきます。

しかしながら最近は、以前のようには四季の移り変わりがきっちりとしていないと言われていますし、確かにそのように感じます。特に春や秋は短くなり、暑い日々から急に寒くなったり、寒い日が続くかと思えば急に暑くなったりと、このままでは夏と冬だけになってしまうのではないかとさえ思ってしまうほどです。

このような気候の異常は、さまざまな環境破壊などが原因であると言われています。そしてそれだけではなく、大本では、私たち人心の乱れが大きな原因であるとお示しいただいています。

季節の移り変わりに思いを馳せるとともに、日々の生活と自分の心の在り方も見直すように、心がけていければと思います。

大本公開講座

明るく素直に前向きに①

～大本四大綱領～

愛善宣教課主事
鈴木林太郎

人生の本分

「神は万物普遍の霊にして人は天地経綸の主体なり、神人合一して茲に無限の権力を発揮す」

これは、神と人の関係を示した「大本教旨」で、教義の根幹にあたります。

人は〝霊止〟と表すように、生まれながらに神心を授かっています。神心は愛善ともいい、利他的な愛のことです。〝神人合一〟とは、神心に立ち返ることで、大本では「改心」ともいいます。〝権力〟とは、権威や強制力ではなく、神徳をいいます。徳が高いというのは、神心が備わっている人と言い換えられるかと思います。

「大本教旨」は、人の使命は神の御心を体して、平和な世界を築くことであると示しています。霊性を良い方向へ高めながら、日々の生業に励み、仕事を成しえることが人生の本分といえます。

人類生活の根本原理

そのための根本原理が「四大綱領」で、「祭」惟神の大道、「教」天授の真理、「慣」天人道の常、「造」適宜の事務、に説かれています。

大本では礼拝のとき必ず最後に「惟神霊幸倍ませ」と唱えます。全ては神の御心のままにという意味です。まさに惟神の大道を進むことになります。〝天授の真理〟とは時代や環境で変化しない普遍の真理です。〝天道〟とは、例えば天体の軌道のように、普遍の真理に基づいた慣性です。〝人道〟には、神から授かった本能的な習慣と、時代や環境、教育などによって培われた、後天的な習慣をいいます。「造」の〝適宜の事務〟とは、自発的な衝動により思いのままになすことで、仕事や職業だけでなく、悪い慣を破る力ともなります。

宇宙の中心は神

中心が定まった天秤に、左右同じ重さのものを乗せると釣り合います。〝真に釣り合う〟状態、これがマツリ（真釣り）の本義とされています。中心をもとに和合・調和することが、本来のマツリの意義です。

これを宇宙レベルで考察してみます。地球は太陽と一定の距離を保ちながら公転し、自転を繰り返しています。この運動は気の遠くなるような歳月にわたり、常に一定の軌道をとり、寸分の狂いもありません。この秩序正しい慣性に従って調和が保たれ、宇宙は造化のはたらきをしています。太陽と地球の距離が少しでも変化すると、宇宙間の調和が保てず、人類をはじめ万物は生きていけません。

では、宇宙の力の中心・本源はどこにあるのか？

出口王仁三郎聖師は「宇宙の本源は活動力」であり、その活動力こそが神であると説いています。

天地の和合

さらに聖師は、「マツリとは〝天上の儀〟と〝地上の儀〟を相一致させる作法である」と示し、これが祭祀の本義であるといえます。〝天上〟とは神、霊界、宇宙間のように時間や空間を超越した世界、〝地上〟は人、現界、地球上など、時間・空間の存在する世界と置き換えられるかと思います。

太古の昔、人類は天文学の基礎となる暦をつくりました。今日が〇月〇日というのは、当たり前の共通認識ですが、もし暦がなければ、人間の生活は崩れ、生産性を失ってしまいます。

時間と空間が存在する地上の世界には、どうしても年月日を定めることが必要だったのだと想像できます。暦は人類が天地を合致させた賜物といえるかもしれません。

祭祀行事と習慣

日本は季節ごとの祭祀や行事を重んじてきました。大本では神道式の祭典が行われ、米、酒をはじめ野菜や果物などを神前に供えます。この神饌物は、天から授かった「日水土の大恩恵」に対する感謝を形に表したものです。祭祀は人が感謝と祈りをもって、神霊と和合するのが本来の姿とされています。冒頭で紹介した「大本教旨」の「神人合一」は、究極にいえば祭祀によってなされます。

また、日本では二十四節気や節句などの年中行事を重んじてきました。例えば冬至は、一年で最も日が短いので、体を冷やしやすいと古くから伝わっているので、ゆず風呂に入り、カボチャを食べるとよいとする「習慣」を生みました。

宗教と教・慣

歴史をたどると、人類は科学を通じて神に挑戦してきたといえるかもしれません。しかし、出口日出麿尊師が「真の宗教者は、正しい科学者でなくてはならぬ」と説いているように、宗教と科学は決して平行線の関係ではありません。四大綱領の「教」は〝天授の真理〟です。真の宗教とは、政治・経済・科学・医学・教育など、あらゆるものを包含する、天啓普遍的かつ教えでなければならないと示されています。

一方、宗派が違えば、教会や寺院のような建築様式をはじめ、宗教から生まれた文化は様々な特徴をもっています。そして、その国や地域にあった慣が生まれました。「教」は「慣」となって表われますが、良い習慣は真理によって生まれると教えられています。

人の社会

「教」は孝が文なすと書くように、上下関係における孝の交わり、忠孝の精神が理想とされます。また、〝緒強う〟といって、魂の緒（霊魂）を強くする躾教育と、個性を引き出すバランス（調和）が大切であると教えられています。

具体的には「感恩」「鍛練」「順序」が、教育の指針にあげられます。物事を身に付けるには、忍耐力が必要ですし、そうでないと心からの感謝の念は起こりません。また、長幼の序といわれるように、人と人との関係や距離など、順序を重んじることが大切とされています。

個性とは本来、中心と順序があるなかに生きてくるものです。社会、地域、学校、家族など、あらゆる集合体には〝マツリ合わせ〟が必要で、間違った教育をすると、悪い習慣を生み出してしまうことになります。

大本では、茶道や能楽などを奨励していますが、その道を極めるのではなく、稽古を通じて自己を省み、良い「習慣」を身に付けることで信仰の姿勢を正すのです。信仰即生活の実践といわれています。

造化のはたらき

「造」について尊師は、「自己の自発的衝動のままに行うこと」と示しています。赤ん坊がまさにその例で、理性はなく〝我〟のままに生きています。お腹が空けば、場所と時間に関係なく泣きますが、大人が職場でそのようなことは、しません。決まった時間に食事をするのも、そこでの習慣であり、それがなければ秩序が保てません。

神の実在について「宇宙の本源は活動力」と冒頭でいいましたが、神の分霊・分体であり、小宇宙といわれる人には、造化のはたらきが賦与されています。「造」がなければ、人は生命を保つことができません。広くいえば万物は、造化のはたらきによって生成化育されるのです。

世界の救済

人は誰しも天職に就きたいと願っています。

天職とはなにかについて、聖師は「四大綱領の進歩発達を祈願し、完成に向かわせること」、尊師は「人類共通のものであって、神の子神の宮としての本分を全うすること」と説いています。

人としてこの世に生を享けたからには、万民和楽の世を作りあげるために、一人ひとりが志を高くして、仕事に誇りを持ちたいものです。

仕事には尊卑の区別はなく、役割が大事であると教えられています。時計の長針・短針は、内部の電池やネジがなければ動きません。どれ一つ欠けても時計は用をなしません。

さらに聖師は、「他人はどうでもよい、自分だけが清く正しければよいと思っていては、天職を完遂できない」と示し、世のため人のために自己の能力を発揮するよう諭しています。

「四大綱領」の原理に従うことは、〝世界の救済〟につながると教えられている所以はここにあります。

掲載文は、平成27年11月18日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

節分大祭遥拝祭

開教124年節分大祭遥拝祭は、2月3日、午後6時30分から斎主・猪子恒東京宣教センター次長のもと執行され、99人が参拝した。

祭典後、大本神諭の拝読、斎主・祭員による豆まきが「鬼は内、福は内」の掛け声にあわせて行われ、次いで猪子次長があいさつを述べた。

その後、ダルマや今年の干支・申の飾り物が当たる福引が行われた。また大本では「悪事災難の穢(けが)れを除く」とされる甘酒が食堂で振る舞われ、参拝者はご神徳に浴した。

盛大に豆まきが行われた

東光苑月次祭

東光苑月次祭・豊年祈願祭・市杵島姫命例大祭は、2月14日、午前10時30分から、斎主・高野春樹祭務課長のもと執行され、300人が参拝した。

祭員は関東教区各主会青松会員、少年祭員は東京主会の成田小春さん、小巻さん、かさねさん姉妹と玉置巴さん、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は小林龍雄神奈川主会次長、添釜は中村社中が担当した。

祭典後、浅田秋彦本部長があいさつに立ち、「教団方針の主旨は、みろくの世の教えを〝外へ広く、内へ深く〟伝えることであり、これを全国に先駆けて実践することが首都圏宣教の大事な役割である。教団方針をご神業の一つとして、進めていただきたい」と述べた。

最後に、藤本光総務管理課長のギター伴奏で、全体合唱が行われ、愛善歌「栄光」と「花は咲く」が斉唱された。会場には、春の陽気にも似た温かい雰囲気が漂った。

大本公開講座

「第156回大本公開講座は、2月17日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、猪子恒東京宣教センター次長が「大本とは②～出口王仁三郎の世界観～」と題して講演した。参加者は31人（内、一般9人）。

講座では、「出口王仁三郎聖師は高熊山修業で、すべてのものは神さまの分霊・分体・分力であり、人は神の子神の宮であり、同時に天地経綸の主体者であることを悟った。万教同根、人類愛善も、そこから導き出される」と説き、「この二つがさらに広まる時、世界はみろくの世に向かうことになる」と結んだ。

王仁三郎の生涯についても紹介

参加者からは、「万教同根を唱えた大本の示す世界観の一端を学ぶことができました（男性・一般）」等の声が寄せられた。

教本1級～3級認定講習会

「教本1級～3級認定講習会」は、2月20・21日の両日、東京宣教センターを会場に開催され、のべ33人が受講した。

受講者は、実践リーダー教本『初級編』・『中級編』を音読学習し、各章ごとに練習問題と対話実習を実施。み教えを学ぶとともに、〝外へ広く、内へ深く〟お伝えするための実践的な内容を学んだ。

1・2級　音読学習の様子

受講者からは「み教えをお伝えするには、十分に理解することが大事だと感じた（50代・男性）」等の声が寄せられた。

第34回企業繁栄祈願祭

日　程　4月24日（日）午前10時30分

場　所　大本東京本部・東京宣教センター

申し込み　ご希望の方は申込用紙を送付しますので、下記までご連絡ください（なお昨年申し込みいただいた方にはこちらから郵送いたします）

申込先　〒110-0008 台東区池之端 2-1-44
大本東京本部・東京宣教センター内 東光経友会
TEL 03-3821-3701　FAX 03-3821-5283
mail tokyohonbu@oomoto.or.jp
※玉串は後日郵送か当日持参かを必ず明記してください

玉串料　一企業につき1万円以上（申込書に添えて玉串袋にてお納めください）

締　切　4月18日（月）
※ご祈願は4月30日（土）までの1週間執り行います

東光苑祭典・行事予定

3月

13日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・交通安全祈願祭
関東教区春季合同慰霊祭

16日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題　世界平和の実現に向けて
～大本と平和～
講師　田中雅道（国際愛善宣教課主幹）

19日（土）20日（日）
東光苑春季祭式講習会

27日（日）午前10時30分
東光苑観桜茶会

31日（木）午前10時30分執行
二代教主毎年祭（64年）

4月

3日（日）午前9時30分（9時受付）
新入信徒研修会（春の集い）

10日（日）午前10時30分執行
東光苑春季大祭

20日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題　ますます広がる21世紀の新しい社会
～立替え立直しの時代を元気に生きる道～
講師　藤原直哉（株式会社あえるば会長・エコノミスト）

24日（日）午前10時30分執行
企業繁栄祈願祭（34回）

29日（祝・金）午前10時30分執行
四代教主毎年祭（15年）

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com